

展示室 1 小特集：フランク・ブランギン



ブランギン (画)、漆原木虫 (刻)
「夜景 (馬車)」

世界中を旅したブランギンは、特にヴェニスに魅せられて多くの作品を残しています。地中海の明るい光、さまざまな運河とそこに架けられた橋、そしてたくましく働く人々。ブランギンは、これらのモチーフを、強い色彩とダイナミックな構図で描き、イギリスの画壇に新風を持ち込みました。

ブランギンは、日本との関わりも深く、松方幸次郎の美術コレクションを収集する際のアドバイザーとして活躍したことが知られています。またブランギンは、明治 34 年から渡英していた木版画家・漆原木虫との共同作業で木版画を制作しています。さらに、武内鶴之助と栗原忠二らは、イギリス留学中にブランギンに師事し、その作風を受け継いでいるのです。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
フランク・ブランギン	馬車		水彩・紙
フランク・ブランギン	ヴェニス・運河	1924	油彩・キャンバス
フランク・ブランギン	花園	1900 頃	油彩・板
フランク・ブランギン	市場	1924	エッチング・紙
フランク・ブランギン (画)、漆原木虫 (刻)	外国風景		木版・紙
フランク・ブランギン (画)、漆原木虫 (刻)	夜景 (馬車)		木版・紙
フランク・ブランギン (画)、漆原木虫 (刻)	夜景 (用水池)		木版・紙
フランク・ブランギン (画)、漆原木虫 (刻)	船着場		木版・紙
フランク・ブランギン (画)、漆原木虫 (刻)	橋のある風景		木版・紙
フランク・ブランギン (画)、漆原木虫 (刻)	木版画集		木版・紙
武内鶴之助	ウィンザー城		パステル・ボード
武内鶴之助	虹 (英国牧場風景)		油彩・キャンバスボード
栗原忠二	オックスフォード		グワッシュ・紙
栗原忠二	ハマースミス・ブリッジ		油彩・板
栗原忠二	ヴェニス風景		油彩・キャンバス
サー・エドワード・コーリー・パーン=ジョーンズ	フローラ	1868 - 84	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダーブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ジョン・コンスタブル	テダムの谷	1802	油彩、紙・キャンバス

展示室 2 「写実性」と「絵画性」



伊藤快彦「子供像」

日本の幕末から明治にかけて流入してきた西洋画法の大きな効用の一つは、事物をリアルに描写することができるという「写実性」でした。その特性を生かした記録という役割は、やがて写真技術にとって代わられることになりました。国粹主義による洋画低迷の時期を経て、明治 20 年代半ばになると黒田清輝らがフランス留学から帰国し、外光派に影響をうけた新しい洋画が多数制作されるようになりました。

さらに大正時代に入ると画家たちは、絵画そのものの芸術性「絵画性」を追求していくこととなります。印象派やフォービズム、キュビズムといった海外の芸術にも影響をうけながら、やがて「日本的な油絵とは何か」が考えられていくようになりました。それぞれに魅力をもった日本近代絵画の魅力を感じていただければと思います。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
諫山麗吉	甲州猿橋		油彩・キャンバス
亀井竹二郎	石版 懐古東海道五十三驛真景油彩原画より	1877 (明治 10)	油彩・紙

作者名	作品名	制作年	技法・材質
五百城文哉	真如堂図	1897 (明治 30)	油彩・キャンバス
川島理一郎	コルシカ島サゴーン風景	1921 (大正 10)	油彩・紙
斎藤与里	海辺秋景		油彩・キャンバス
山本芳翠	園田銚像	1885 (明治 18)	油彩・キャンバス
原撫松	横山孫一郎像	1899 (明治 32)	油彩・キャンバス
原撫松	横山勇子像	1899 (明治 32)	油彩・キャンバス
木村荘八	祖母の顔	1916 (大正 5)	油彩・板
中山巍	赤ジレ座婦	1927 (昭和 2)	油彩・キャンバス
里見勝蔵	軍人	1927 (昭和 2)	油彩・キャンバス
浅井忠	少女の顔	1878 (明治 11)	木炭・紙
伊藤快彦	子供像		油彩・キャンバス
白滝幾之助	編物をする少女	1895 (明治 28)	油彩・キャンバス
有島生馬	少女	1908 (明治 41)	油彩・キャンバス
横井弘三	子供		油彩・キャンバス
伊藤快彦	夏の静物		油彩・板
高橋勝蔵	桃と葡萄	1909 (明治 42) 頃	油彩・キャンバス
林俊衛	机上のリンゴ	1918 (大正 7)	油彩・板
恩地孝四郎	黒い机	1922 (大正 11)	油彩・キャンバス
中村彝	朝顔	1923 (大正 12)	油彩・キャンバス

展示室3 ふるさとの作家たち



佐藤昭一「作品」

このコーナーでは「郷愁」を意識させるテーマを、福島県ゆかりの作家たちの作品で紹介いたします。黒沢吉蔵はふるさとの山河を描き、そこから自然の尊厳を訴えています。安藤重春や青津清喜の絵は観る者に幼き日を想い起こさせます。常盤大空、土橋醇、鎌田正蔵、佐藤昭一、斎藤清らの作品は象徴的なノスタルジーを感じさせます。象徴的といえば岩谷徹の日本のイメージの象徴である能シリーズもその部類に入でしょう。また、ふるさとの「歴史」といえば三木宗策の坂上田村麻呂をモデルにした木彫作品です。佐藤静司の作品は現代の郡山―楽都のイメージにもつながります。ふるさとに残る人、ふるさとを離れた人、いずれにせよ郷愁―ふるさとのイメージは芸術家の力になっていることを観ていただきたいと思います。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤昭一	シリーズ人間―Sさんのトマトー	1979 (昭和 54) 頃	油彩、アクリル・キャンバス	
水田荘介	青衣の女	1964 (昭和 39)	油彩・キャンバス	
青津清喜	窓際	1950 (昭和 25)	油彩・キャンバス	
安藤重春	雨の華	1979 (昭和 54)	紙本着色	
黒沢吉蔵	谷地をめぐる風景	1964 (昭和 39)	紙本着色	黒沢吉蔵氏寄贈
土橋 醇	イル・ド・フランス	1956 (昭和 31)	油彩・キャンバス	
常盤大空	古代頌	1960 (昭和 35)	紙本着色	常盤房子氏寄贈
佐藤昭一	作品	1963 (昭和 38)	油彩、セメント・板	佐藤昭一氏寄贈
鎌田正蔵	鳥が落ちる	1986 (昭和 61)	アクリル・キャンバス	
斎藤 清	HANIWA (1)	1951~54 (昭和 26~29) 頃	木版・紙	
斎藤 清	HANIWA (2)	1951~54 (昭和 26~29) 頃	木版・紙	
岩谷 徹	能―森	1975 (昭和 50)	メゾチント・紙	
岩谷 徹	能シリーズ9	1976 (昭和 51)	メゾチント・紙	
三木宗策	威容抱慈 (坂上田村麻呂像)		木彫	
三坂耿一郎	女童	1974 (昭和 49)	ブロンズ	
佐藤静司	フルーティスト	2000 (平成 12)	木彫	佐藤静司氏寄贈

展示室4 ターナーの版画



ターナー
「ネッカー川対岸から見たハイデルベルク」

ターナー（1775-1851）は、ロンドンの中心部、コヴェント・ガーデンに生まれました。都会っ子のターナーは都会の喧騒よりも、自然に関心を抱いていました。彼は幼少時から絵画への才能を発揮し、瞬く間にイギリス美術界のスターダムにのし上がりました。

彼は若い頃から銅版画に対する芸術の可能性を探究しており、弱冠 19 歳のときに最初の版画を残しています。版画作品の完成度に対するターナーの要求は高く、しばしば彫版師と衝突し、制作が中断になり、なかには自分自身で彫った作品もあります。

ターナーの版画の魅力のひとつには、色彩画家として知られる彼の芸術が、モノクロやセピア色の版画作品において、いかに表現されているのか、ということにあるかもしれません。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	橋と牛	1807	エッチング
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	牧草地から仰ぎ見る城（オークハンプトン）	1808	エッチング、メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ベリー・ポロマイ城（ラグラン城）	1816	エッチング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	バトル修道院	1816	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ベン・アーサー	1819	エッチング、メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	エディスタン灯台	1824	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	キャットウォーター、プリマス		メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ドーバー海峡	1827	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	トットネス	1827	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ノアの大洪水	1828	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ストーンヘンジ	1828	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カレー沖の釣船（ドーバー海峡）	1830	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ポッカチオの庭（鳥かご）	1830	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ネッカー川対岸から見たハイデルベルク	1846	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	イースト・ゲート、ウィンチェルシー		エッチング、メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ノラム城		エッチング、メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	エグリモント氏の為の海景画		エッチング、メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	クロヴェリー湾		オープン・エッチング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ティーズ川の流れ、ヨークシャー		ライン・エングレーヴィング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	『ロジャーズ詩集』第1巻、第2巻	1869	ライン・エングレーヴィング/本
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	『パイロンの生涯とその作品』より5点	1832~34	エングレーヴィング/ポートフォリオ
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	『フランスの河川』	1833~5	ライン・エングレーヴィング/本
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	『キャンベルの詩集』より全20点	1837	ライン・エングレーヴィング/ポートフォリオ

展示室4 佐藤潤四郎の「ガラスの神様」



佐藤潤四郎「赤いガラスの神様」

郡山市出身のガラス工芸作家、佐藤潤四郎が創り出した可愛いキャラクター「ガラスの神様」。空を舞い、歩き回りながら、溶けたガラスの玉を吹きざおの先に巻き取って、息を吹き込んでいます。

きっと、ガラスの神様とは、潤四郎自身でもあり、自分がデザインしたものに形を与えてくれているガラス職人たちでもあるのでしょうか。それらが愛らしいのは、潤四郎の職人たちへの深い感謝の気持ちのあらわれなのです。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤潤四郎	ガラスの神様になった私		水彩等・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	トリオ・ザ・ガラスの神様		水彩等・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	夜空にガラスを吹くガラスの神様		水彩等・紙	佐藤久枝氏寄贈

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤潤四郎	仏の掌に乗るガラスの神様		墨、木炭・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	ガラス作業之図	1984 (昭和 59) 頃	墨・紙	田淵十一氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・ガラスを吹く人		鍛鉄	寄託作品
佐藤潤四郎	花器・馬車に乗るガラスの神様	1973-76 (昭和 48-51)	宙吹、サンドブラスト	(株)ノリタケクリスタル寄贈
佐藤潤四郎	ガラスの神様文瓶		宙吹・グラヴェール、プランツ	
佐藤潤四郎	植物文瓶		宙吹・グラヴェール	
佐藤潤四郎	大杯・ガラスを吹く人	1986 (昭和 61)	宙吹・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	タンブラー		型吹・グラヴェール	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	葡萄文ワイングラス		宙吹・グラヴェール	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	大杯・ワインを造る		宙吹・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	竹に雀文ワイングラス		宙吹・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	ルーマー杯・なみなみのワインを		宙吹・グラヴェール、プランツ	
佐藤潤四郎	花器	1986 (昭和 61)	型吹・エッチング、カット	
佐藤潤四郎	花器・アダムとイヴ		宙吹・エッチング	
佐藤潤四郎	花器		鍛鉄吹込、雲母封入	
佐藤潤四郎	花器・灯もつけて		鍛鉄吹込	
佐藤潤四郎	花器		鍛鉄吹込	
佐藤潤四郎	花器	1986 (昭和 61)	鍛鉄吹込	
佐藤潤四郎	陶皿に描く		陶器	寄託作品
佐藤潤四郎	赤いガラスの神様		ガラス・レリーフ	田淵十一氏寄贈
佐藤潤四郎	硝子の女神	1982 (昭和 57)	ガラス・レリーフ	田淵十一氏寄贈
佐藤潤四郎	陶板・天使		陶器	寄託作品
佐藤潤四郎	オブジェ・羊車		鍛鉄、ガラス	寄託作品
佐藤潤四郎	これ以上芽の出ない世界	1980-82 (昭和 55-57) 頃	宙吹	
佐藤潤四郎	オブジェ・羊車	1980-82 (昭和 55-57) 頃	宙吹・プランツ	

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
● 1階展示ロビー				
アントニー・ゴームリー	量子雲 X X III	2000	ステンレス、スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域 X III	2000	ステンレス、スチール棒	
細川宗英	装飾古墳シリーズ 9	1963(昭和 38)	セメント	細川明子氏寄贈
● 1階サブエントランス				
笠置季男	躍進	1958(昭和 33)	セメント	
● 2階展示ロビー				
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡 1・2		陶器	寄託作品
佐藤潤四郎	石で仏足跡		石	寄託作品
アリスティード・マイヨール	もの思い	1930	ブロンズ	大高善二郎氏寄贈
柳原義達	女の首	1958(昭和 33)	ブロンズ	
木内 克	女の顔	1965(昭和 40)	石膏・顔料	和田敏文氏寄贈
佐藤静司	子供頭部	1955(昭和 30)	木	佐藤静司氏寄贈
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	

※作品は都合により一部展示替えを行うことがあります。